

f-2 群馬・青木ヶ原・伊豆の天然杉



ごろう おおすぎ
五郎の大杉 評価 B

幹周 M10.5m(1.3m 2012)
群馬県安中市松井田町大字坂本

五郎の大杉にある解説版によれば、この大杉は、寛文3年から4年(1663~1664)にかけて、安中藩主水野元綱・元知父子の時代に、領内一円を検地し直した時の元杭に使われたといわれている。大きく広がる根元の空洞は、古株跡と考えられ、現在立つのは二代目ということで、古株更新の樹形である。

根元が大きく広がる樹形の為、幹周の数字が大きくなった。



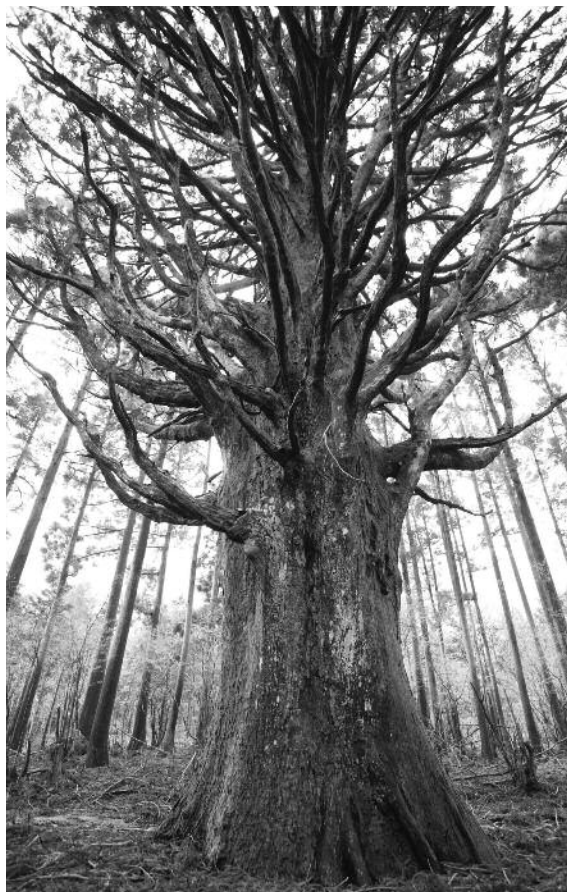
シラヌタの大杉 評価 B

幹周 M8.16m(1.3m 2010)
静岡県伊豆市東伊豆町大字奈良本

シラヌタの大杉の大きな特徴は、隣の若い一本杉と、主幹から伸びる枝が2カ所も連理していることだ。このような大杉は、全国的にも他に例を見ない存在だ。天城には有名な「太郎杉」があり、それに次ぐ大杉として「次郎杉」とも呼ばれる。

先端の枝が垂れないオモテスギの巨木としても大変珍しく、貴重な存在だ。





あまぎ ば すぎ
天城のお化け杉

評価 C

幹周 M5.2m(1.3m 2010)

静岡県伊豆市東伊豆町

シラヌタの大杉からさらに林道を歩き、杉林の境の山道を左に入ってしばらくすると立つ。あまりの異形に地主が神として崇めるために伐採をしなかったようだ。先端の枝が垂れないオモテスギの巨木としても大変珍しく、貴重な存在だ。

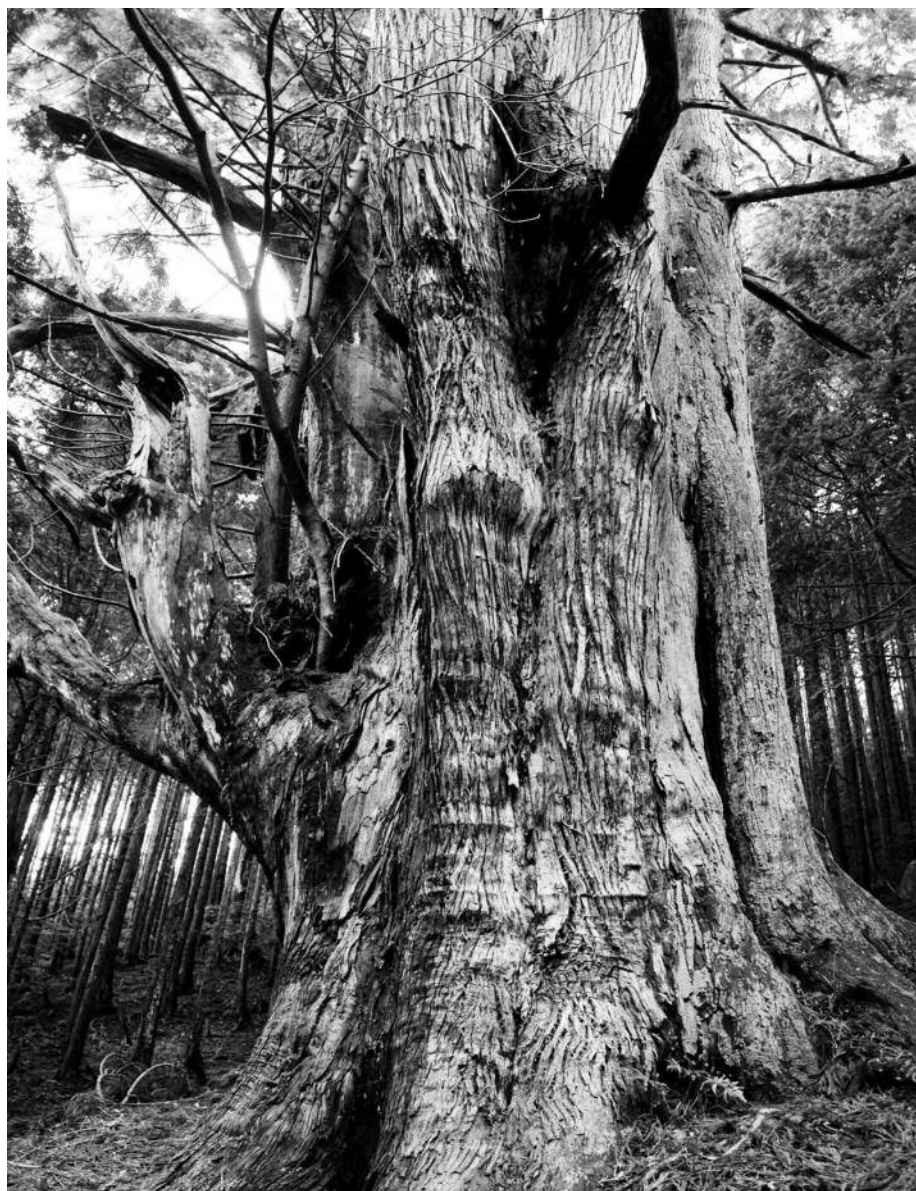
あおきがはらじゆかい
青木ヶ原樹海の杉

評価 C

幹周不明 樹高不明

静岡県

近年確認された天然杉で、幹周約6m程であろうか。
 (写真・Web 画像)



こうち おおすぎ
河内の大杉 評価 A

幹周 10.68m(1.3m 2010)

静岡県沼津市西浦河内

地上3~6mで7分岐する樹形。古株更新の樹形のようなのであるが、古株の痕跡が見えないのは、完全に根が幹になって、古株を覆っているからだろう。おそらく内部は大きな空洞になっていると想像される。先端の枝が垂れないオモテスギの巨木としても大変珍しく、貴重な存在だ。

